# 第８回（仮称）磐田市協働のまちづくり基本条例策定検討委員会　議事録

| | |
|---|---|
| 日時 | 令和４年 12 月 22 日（木）午前 10 時～午前 11 時５分 |
| 場所 | 磐田市役所本庁舎４階 大会議室 |
| 出席状況 | 委員<br>日詰　一幸（静岡大学学長）<br>村上　勇夫（磐田市自治会連合会会長）<br>星野　秀次郎（磐田市自治会連合会副会長）<br>藤田　　允（竜洋住みよいまちづくり協議会会長）<br>青野　博美（豊岡中央地域づくり協議会会長）<br>三輪　邦子（NPO 法人磐田まちづくりネットワーク代表理事）<br>村田　建三（NPO 法人いきいき・いわた理事長）<br>長谷川　トキ（磐田市社会福祉協議会会長）<br>高田　一良（地区社協連絡協議会会長）<br>阿部　俊典（公募委員）<br>両角　真利（磐田市長野交流センター センター長）<br><br>事務局<br>自治市民部：鈴木部長<br>地域デザイン推進室：宮本室長、山田主査、杉田主任、藤主任、宮崎主事 |
| 傍聴者 | ０人 |
| 議事内容 | １ 第２回ワークショップの振返り<br>２ 第３回ワークショップに向けて<br>３ その他 |
| 録音の有無 | 有 |
| 発言者の記録 | 要点記録 |
| 会議記録 | １　開会<br>（事務局）<br>皆さんおはようございます。それでは定刻になりましたので、第８回（仮称）磐田市協働のまちづくり基本条例策定検討委員会を開催いたします。地域デザイン推進室の山田です。よろしくお願いいたします。本日の委員会の終了予定ですが、11時を予定しておりますのでよろしくお願いいたします。開会に当たりまして、日詰委員長から御挨拶をいただきます。よろしくお願いします。 |



| | |
|---|---|
| | （委員長）<br>御出席をいただきましてありがとうございます。11月20日は小規模多機能自治のシンポジウムを開催させていただきまして、皆様に御参加いただきました。いろんな形で御支援をいただきまして大変ありがとうございました。また後で事務局のほうから御報告いただきますが、小規模多機能自治の在り方というものを、この磐田市の皆様も理解を深めておられると考えております。また、全住民アンケートという取組がいろんなところに広がりつつあるということで地域のニーズが掘り起こされてきています。そして、そのニーズに対してどのように対応していけばいいのかということを、住民の皆様がみんなで考えようという気運が出てきたということも大変すばらしいと思っています。今日は２回目のワークショップについて振り返りをしますが、そのようなニーズと、住民の皆様の取組をどのようにつなげていくかというところで、このワークショップは大変重要な役割を果たすと考えております。今後もこの場を通して検証しつつ、どのようなことをさらに加えていけばいいのか、皆さんと御検討いただければと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。<br>（事務局）<br>ありがとうございました。それでは定足数の報告をいたします。本日、飯田委員が御欠席されております。委員12名中11名の御出席をいただいておりますので、（仮称）磐田市協働のまちづくり基本条例策定検討委員会の要綱第５条第２項に定める定足数の半数以上を満たしておりますことを御報告申し上げます。なお、本日の会議傍聴者はおりませんので、あわせて報告いたします。なお、本日につきましてもファシリテーターにお越しいただいておりますので、お伝えをしておきます。それでは、これからの議事進行につきましては委員長にお願いしたいと存じます。よろしくお願いいたします。<br>（委員長）<br>御手元の次第に従いまして議事を進めていきますので何とぞ御協力をお願いいたします。第２回ワークショップの振り返りについて事務局から御説明をいただきたいと思いますのでよろしくお願いいたします。<br>（事務局）<br>はい。第２回のワークショップにつきましても、委員の皆様に御出席をいただきまして誠にありがとうございました。また阿部委員と飯田委員におかれましては、ワークショップ冒頭の説明の大役を務めていただきまして、誠にありがとうございました。前回のワークショップにおきまして、牧之原市のＤＶＤが流せなかったことは私の責任でございます。本当に申し訳ございませんでした。ＤＶＤは参加者に是非見ていただきたい内容になっておりますので、第３回のワークショップで見る時間を入れていただければと思っております。それでは、資料の１ページ目を御覧ください。第２回につきましては、54名の参加者を見込んでおりましたが、急遽、当日に欠席された方が、７名おりましたので、参加者は47名となりました。次第の１ページから９ページは報告書となり |

| | |
|---|---|
| | ます。10ページ目は、アンケート結果となりますのでまた御覧ください。今回につきましては、前回と比べましても大分緊張感が和らいでおりまして、皆さん楽しみながら対応されていたと感じておりました。また、第２回の目標でありました、協働や市民自治に関するようなワードが上がっておりましたので、有意義なワークショップであったのではないかなと考えております。一方、ある参加者からは、「公園の話をしに来たわけではない」となかなか厳しい意見があったと聞いております。アンケート結果の８番目にも、同じような意見が記載されております。今回は、協働や市民自治の必要性を学び、事例を用いながら課題解決に向けて、一緒にやれることを考える大切さを学んでいただきたいということが目的でした。この方には、目的や目標がうまく伝わらなかったようで、これにつきましても反省をしております。まずは委員の皆さんに、第２回を振り返っていただければと思っておりますので、よろしくお願いいたします。以上となります。<br>（委員長）<br>はい、ありがとうございました。第２回目のワークショップの概要について御報告いただきましたが、皆様のほうから御意見をいただきたいと思っております。いかがでしょうか。<br>（委員）<br>２回目も参加させていただきました。最初のお話の部分がとても大事だと思います。それをどう聞いたかというところが次のワークショップにつながってくると思います。２回目も講師から、「みんな話を聞いていないよね」というような雰囲気の言葉が出ていました。磐田の人たちは、聞く場面と、自分たちが話し合う場面をきちんとわきまえられるようになるには時間がかかると思いました。まちづくりに対して物を言いたい人たちが多かったのではないかと発表のときに感じました。自分のグループは、「自分だったら何ができるか」という話から入ったのですか、ワークショップのときに、話がそれてしまいそうになりました。そのときにちょうどファシリテーターの方がテーブルに来ていただいて、「今日はこんな公園をつくりたいということではありません。自分なら何ができるかという話合いの場です。」とおっしゃってくださったので、私のグループは、それに気づいて、最後までその話をすることができました。ところが、その部分を勘違いしていたグループが、最後の報告を聞いていたときにたくさんいたので驚きました。以上です。<br>（委員長）<br>はい、ありがとうございました。２回目は阿部さんと飯田さんに、情報提供ということで、磐田市のことについてお話をいただいたと思います。今回は、公園の在り方をディスカッションする場ではなく、もう少し広げて磐田市全体のまちづくりの在り方について考えましょうというところが今回の目的だったというように軌道修正していただいたということでこれはとてもよかったと思います。まちづくりというと、特定のところで何か物を言いたい人もいらっ |



| | |
|---|---|
| | しゃいますので、そのような方の思いをもう少し広げさせていただくということがとても大事だと思います。<br>（委員）<br>このワークショップに参加していただいている方は、それなりに熱を持っている方だと思います。そのような人は自分の思いが強いので、それぞれの地区のワークショップを開いたときに、戦力になりうる人だと思います。今回のようなワークショップで見てしまうと、少し目的とそれてしまい、なかなか言うこと聞いてくれなかったり、分かってくれなかったりするイメージがついてしまいますが、あの場にいること自体が熱を持っている人なのだという、そのような理解のもとで地区に戻ったときには戦力になりうる人物だと思いました。今後は、地域づくり協議会や自治会ベースで、このような取組が展開していくといいと思いました。以上です。<br>（委員長）<br>ありがとうございました。ほかの皆様いかがでしょうか。<br>（委員）<br>私が今置かれている立場だったら何ができるかということを最初に考えました。私のグループは、年寄りが３人と若者が２人でした。ワークショップの意味もあまり分からず、ただ集まってファシリテーターの方が言われたことについて話し合うようなイメージでいましたが、グループに若者が入ったことで、考え方が変わってきました。始めは、私たち老人は安心して集まれる公園などが頭に浮かびましたが、若い人やお母さんたちはそうではなく、公園から何を生み出すかとか、どんな公園が市民にとって大事だとか話が広がっていきました。その話の途中で、今日のテーマについて気づかされました。ですから、不十分でもみんなが参加することを繰り返していくことがとても大事だと感じました。若者が代表で発表してくれることになり、私は余分な心配をしましたが、しっかりまとめてくれて、自分たちの思いを伝えることが出来たので、やはり古い人と、若い人が一緒に集まって繰り返し、このような会を開催することの大事さを改めて感じました。以上です。<br>（委員長）<br>これまでは地域のことは男性が中心となり、同年代の方々が集まって決めていくことが一般的な日本の姿だったのかもしれません。年齢や性別を超えて集まってきていただけると、そのグループの中には男性も女性も、外国籍の方も入ってきて、年齢も非常に若い方と、年配の方もいらっしゃいます。そのような方々がまちづくりの主役であり、自分たちが主役であるということに気づくことも今回とても大事なことだと思います。年齢層の同じような方々で集まって話をしていても同じような意見しか出てきません。ところが若い人たちの意見を聞いてみると、そうなのかと気づかされる部分は多いのではないかと思います。自分の考えが変わることが容易に起こってくるのは、このようなワークショップの非常にいいところではないかと思います。お互いに何を考えているの |

| | |
|---|---|
| | かを理解し、共感するということもまちづくりにとってはとても大事な要素だと思います。ほかにどうでしょうか。<br>（委員）<br>行政がワークショップをセッティングしたことが今まで本当になかったので、お互いに気づくというところが本当にこれからだと思いました。いろんな年代が集う場としては、お互いの意見をしっかり聞いて、自分たちが何を考えてどのように発言していくか、そこら辺の学びはこれから市民の方にいろんなパターンで参加してってもらった方がいいと思います。地域のほうも、そのような場を意識的につくっていきながら場に慣れていき、そのような場が、これから協働のことや全住民アンケートのこれからの事業を考えていくときには、ベースになるのではないかと思います。<br>（委員長）<br>はい。ほかにいかがでしょうか。<br>（委員）<br>地域の中でいろんな意見がありますが、顔見知りの人たちが集まると、とにかく悪口ばかりになります。不満がたまっているのをどこかの場で吐き出してもらうのがとても大事なような気がします。ただ、行政単位でやろうとすると、不平不満ばかり出てきてしまうと取扱いに困ってしまうと思います。小さい単位で欲求不満の吐き出し会みたいなものができるといいと思います。欲求不満だと、誰かを攻撃することになってしまうので、それをどう建設的な意見にレベルを上げていくかが、ファシリテーターさんの腕の見せ所になるのかもしれません。<br>（委員長）<br>ありがとうございました。多様な意見の中にやはり不満のはけ口も必要だということ、それも一つ大事なことだと思います。不満がどうすれば解消できるのかといったところに進んでいけるととてもいいと思います。恐らくそのような議論が起こったときに、それをうまく不満から、前進進歩のほうに変えていけるようなファシリテーションがとても大事になってくると思います。今回は市のほうで場を設定していますが、場合によっては皆さんのほうでセッティングしていただいて、公民館などでいろんなディスカッションのようなものが日常的に出来ていくのが自然だと思います。そのようなところをリードしていただく方が、これから育っていただくということが本市にとっても、小規模多機能というものを考えていくときにとても大事になってきます。ファシリテーションができる人が意見をうまく誘導し、導いてくれる役割が果たせたらいいと思います。ここにお集まりの皆さんもそのような役割を担っていただける方になっていただければと思います。ほかに何かありますか。<br>（委員）<br>皆さん、公園をつくるというとお花を植えたいとか、子どもさんたちを安全に遊ばせたいとか、いつも公園を利用している目線の話がたくさん出てきまし |



| | |
|---|---|
| | た。私は公園にほとんど行くことはなく、土日はサッカーをしていましたのでよくわかりません。しかし、会社の経験を生かして、「もしここに公園をつくるのなら、何から始めたらいいですか」、「どのような公園にしたらいいですか」と、皆さんに話かけてあげたら、「どこに公園つくったらいいでしょうか」など、会社人間としてはプロジェクトを成功させるストーリーというのがありますが、そのような流れの中に皆さんふっと入ってきました。それからいろんな意見が出てきました。成功させていくためにはある程度の、成功のストーリーが見えていて、それをガイドしてくれる人がいろんなところにいることが必要だとこのミーティングをやりながら感じました。以上です。<br>（委員長）<br>ありがとうございました。そのような人がたくさん磐田の中に増えていくことはいいことだと思いました。ありがとうございます。ほかにいかがでしょうか。<br>（委員）<br>公園をつくるというテーマの中で、僕らのグループは、「イベントをやりたい」、「草刈りだったらできる」といった話が出てきました。その中で、中学生の女の子が「安心して入れて、防犯上しっかりしているトイレが欲しい」と、大人顔負けの立派なことを言ってくれました。これからこういった活動が地域展開されていくときに、交流センターを使ったことがない住民からすると、交流センターは行きにくいように思います。こういったワークショップを、小学校の体育館や空いている教室で開催すると、子どもたちも保護者も行きやすくなると思います。小学校区中学校区を中心として整備していこうということであれば、会場も交流センターを使うのも勿論いいですが、会議室のようなところにこだわらず、臨機応変に地域の人が集まってワークショップを開くのにはどこがいいかといった観点も含めながら、地域の中で会場選びを検討してもらえると、もう少し選択肢が広がると思います。以上です。<br>（委員長）<br>はい、ありがとうございました。<br>（委員）<br>市民活動センターで、ファシリテーター養成講座を５回実施してきました。11月27日に５回目が終わり、12月からはファシリテーターを継続する意思がある方々で活動し始め、芽が出てきたところです。養成講座が終わるときに教育現場の話が出てきました。地域の中でファシリテーションや、グループワークをやっていくのはもう普通の話になってきていますが、教育の現場では、そういうものが限られたやり方になっているのではないかという話が出てきました。教育の授業の中でグループワークをするのではなく、体育館などを使って、先生たちにもそのような場を見てもらうことがとても大事だと思いました。<br>（委員長）<br>はい。ありがとうございます。教育の場はとても大事な機会であり場であると思います。そのような場をうまく活用していくということも、これは教育委員 |

| | |
|---|---|
| | 会の壁が高いかもしれませんが、あり得るのだろうと思います。また、交流センターをうまく使いこなしていくということもいいと思いました。はい。ほかにありますか。<br>（委員）<br>今教育の場の話が出ましたが、コロナの前は中学校が円卓会議と言っていたかと思いますが、地域の中学生が大きな円になり保護者の方や地域のそれぞれの方が集まることがありました。子どもが提案したことについて周りの人と話をすることができ、とてもいいと思ったことがありました。コロナで今はやってないと思いますが、もう一度復活してほしいと思います。<br>（委員長）<br>皆さんが集まり、多様な意見を交わし合う機会や場がやはりとても大事になってくると思います。そのような場はとても大事で、そこがまちづくりの原点になっていくと思います。小学生や中学生の時から、そのような経験を経ていくことは、磐田市の将来の担い手を育てていくということにもつながっていきますので、とてもいいことだと思います。ありがとうございました。ほかにありますか。<br>（委員）<br>私は自治会の仕事をしていますが、交流センターを中心に活動を活発にしようということで考えています。このワークショップは、市が音頭をとって開催しているので、非常に大上段に構えてしまい、難しく考える人がいると思います。そういう意味でもう少し狭い範囲で、このようなワークショップをもっと身近に感じるような方法が必要だと思います。交流センター単位やもっと狭い範囲で普及させていくと、いろんな意見が出てくるようになると感じました。また、ワークショップをすることによって、人材も育ってくると思います。このワークショップをもっと身近に機会を多くしていくと、自然とこのまちづくりのいいアイデアが出てくるようになると思います。小規模多機能自治で話を進めていますが、このワークショップをやることによって、責任と役割というものが自ずと見えてくるようになると思います。自分だったらこれに参加できる、あるいは責任を持ってやれるということが自然と身についてくる、そういう場だと思います。このワークショップのやり方、広め方も課題だと感じました。<br>（委員長）<br>はい。どうもありがとうございました。交流センター単位で、うまくワークショップのような形のものが展開出来たらいいのではないかという御提案はとても大事だと思います。私たち自身が市民として担うべき責任と役割についても、同時に考えられる場になるのではないかということですが、そういうことだと思います。とても大事な御指摘ありがとうございました。ファシリテーターから何か御感想あったらお願いいたします。<br>（ファシリテーター）<br>たくさんのご意見ありがとうございました。ワークショップはとても曖昧なも |



| | |
|---|---|
| | ので、今回はワークショップという手段を使いましたが、今は皆さんに慣れていただくその前段階です。会社でしっかりお仕事された方たちは、この会議においての目的は何かということをいつも言われますが、ワークショップの場は、意見の集約であり、データ取りの場でもあります。個の意見も大切ですが、相手が言うことを感じてもらったり、自分は違うのだと感じてもらったりする場でもあります。ワークショップを今回たまたま使っていますが、それそのものの有効性は様々なので、私も十分にそれがお伝え出来なかったことを反省しています。牧之原市でも、学校再編のワークショップを６年間で23回開催していますが、そのときに「僕はもっと小中一貫校のことだけをやりたかった。ここのテーマでもっと専門性のことをやりたい。」と言われた方がいました。専門性についてはほかのところでもやっています。どちらかというと、みんなが小中一貫に対して市民の方たちがどのようなイメージを持つかというところを、それぞれの立場で出してもらえればそれでいい場面なのです。前回のワークショップの各グループの意見も、自分なら何ができるかと説明したのに、どんどん話が広がってしまいました。今回はわざと簡単なテーマにしてみました。どのぐらい広がるのかと思いましたが、「もっとここを決めちゃおうよ」、「欲しいものは何だろう」と、そんなことは問いかけていないのにみなさんはどんどん盛り上がっていました。それならもう１回深めてもらい、自分たちができることをもう１回見直していけば、できることがそれぞれ出てきて市民の傾向が分かるようになると思います。このようなことが実際のワークの目的であるので、やはりワークショップは難しいといつも感じています。それから、熱を持って来られる方がたくさんいらっしゃいますが、ここでだんだん慣れてもらえばいいと思っています。ファシリテーターは、箱型の会議のときもファシリテーションしますので、ワークショップの形ばかりがいいわけでもないということは、皆さんの中で使い分けをしてもいいのかなと思います。また、教育現場のワークショップは、これから先もずっと有効にやるべきだと思っています。高校で１日10時から16時までのワークショップをやるときもありました。それは必ず定例でやっています。昨年度は、教職員大学院生の、先生方に対して、ワークショップを子どもと一緒にやってみました。そのような形で今年最後の27日の暮れに、小中学生を集めて学校再編の未来の学校づくりについてやります。いろんな形で、だんだんやって慣れていけばいいのではないかと思います。10何年前に来てくれた高校生の子が、「ここは不平を意見に変える場所ですね」と言ってくれました。本当にそのようなところで、みんな不平不満を持っていますが、それを意見として言い合うのが大事ではないかと感じています。それぞれの人たちがそれぞれの役割を持っていただくことが大事だと思います。次回のワークショップでは、対話する場の必要性について少し話をさせていただければと思っています。いろんな関わり合いがあるので、今回のワークショップのメンバーにいきなり「地域課題の人口減少をテーマに何かつくります」と言っても、今は出来ないと思います。積み重ねがとても大事なの |

で、政策に対してやるであれば、もっとプログラムをつくって、10何回開催するような形でやらないと無理だと思います。今は皆さんに参加してもらうことにまず慣れてもらうところからスタートしていけばいいと思っています。本当はもっと時間をとりながらやれるといいかなって思います。来月は、まちづくりの関わり方はそれぞれあるのだということをお伝えしながら、最後まとめていきたいと思っていますのでまた御協力をお願いいたします。

（委員長）

はい、ありがとうございました。それでは、第３回目のワークショップに向けてということで、最初に事務局から御説明いただきたいと思います。それではよろしくお願いいたします。

（事務局）

次回は１月26日の木曜日となります。場所がｉプラザになりますのでお気をつけください。次回のワークショップの目標ですが、市民参加の意識を広げることと、今回の関わりこそが「市民自治」と感じてもらうことです。テーマにつきましては、対話を重ねることの必要性を考えようとしまして、これまでと同様に始めに委員から、参加者に対して市民活動センターの役割についてお話をいただきたいと思っております。次回御説明をいただきますのは、市民活動センターのセンター長であります三輪委員にお願いしたいと考えております。13ページ目から16ページ目に、パワーポイント資料のイメージをつけておきました。15ページ目を開いていただきたいと思います。委員の説明時間につきましては15分間にさせていただきますのでよろしくお願いいたします。のっぽの役割を説明していただいた後に、センター長の体験から対話の重要性について説明をしていただくこととなります。そして最後に、このワークショップの趣旨を、今一度、三輪委員のほうから参加者に伝えていただき、まとめとしていただければと考えております。委員の説明が終わりましたら、ファシリテーターに進行をお任せして、冒頭で、ＤＶＤを再生していただければと考えております。ワークショップの趣旨については、１度や２度ではなかなか伝わるものではないかもしれませんけれども、先ほどのファシリテーターがおっしゃったとおり繰り返されることで、徐々に浸透していくものであると考えますので、最終回の説明内容につきましては、これから三輪委員と一緒に打合せをしながら作成していきたいと考えております。それから12ページ目には、前回の参加者の名簿をつけておきました。第３回目のチームの案について、何か御意見があるようでしたらまたこれもあわせてお願いいたします。事務局からは以上となります。よろしくお願いいたします。

（委員長）

はい、ありがとうございました。次回は、１月26日の木曜日、夜７時から９時までということで、ワークショップの概要を御説明いただきました。これにつきまして、皆様のほうで進め方ですとかあるいはグループ分けなどについて御意見がありましたら、お出しいただきたいと思います。いかがでしょうか。



（委員）

第３回の参加者名簿を確認しておきたいのですが、市議会議員の方が５名参加ということになっていますが、何々委員会とかあるのですか。

（事務局）

はい。事務局から答えます。市議会の総務委員会が、今年地域コミュニティの勉強会をされております。その中でこのワークショップの話が出たときに、ぜひ委員会としても参加をさせてもらいたいと話がありましたので、委員長とファシリテーターにも相談させていただきながら、１回あたり４人から５人の参加で出てもらうようにしております。５人の議員さんたちは、２回目の参加になります。初めて出られる方は、今回はいらっしゃいません。以上です。

（委員長）

ほかに何かございますか。

（委員）

ファシリテーターの方にお願いしておきたいのですが、グループに分けたときに、長い時間でなくても結構ですから、話しやすい場をつくるような工夫をしてもらうと、スムーズにいくのではないかと思っております。

（ファシリテーター）

はい。本当はアイスブレイクと自己紹介を両方入れると１番盛り上がるのですが、なかなかそこまでの時間をとることができません。しかし、最初のところでは、何かしらのコミュニケーションが取れるものを入れさせていただくようにしたいと思います。議員さんも今回入ってくださっていますが、今年度は実は議員さんの研修が他市でとても多くありました。今年は本当に議員さんが研修をしっかり受けてくれているので、ワークショップに来てくださるということもとてもうれしく思います。ワークショップの最後は、磐田市をみんなで描いてもらおうと思っています。何か一つのものに描いていくと、みんなが同じものを感じることができるので私はとても好きです。みんなが同じものを感じられる場が出来てくるので、最後それをみんなに頑張ってやっていただいて、最後まとめていただければと思っています。

（委員長）

ありがとうございました。ほかに何かございますか。

（委員）

市民ファシリテーターの卒業生の話ですけれども１回目のときは、このようなワークショップの場で、どのように自分たちは参加したらいいだろうかということを各自現場で感じたと思います。そうすると、しゃべり過ぎてはいけないとか、我慢して聞いていなければいけないということを、この１回２回で学んだような話がファシリテーター養成講座終わった後に出てきました。私も自分のグループでは、必要以上のことは喋らないように心がけてきたのですが、そうするとグループの足りないところも見えてくるようになります。あまり意見が出なかったらどうしようとか、１人の人が長くしゃべったらどうしようと

| | |
|---|---|
| | か、それもファシリテーターの役割だと学んできていますので、つなぎ役になると思います。<br>（ファシリテーター）<br>ありがとうございます。ファシリテーターは本当に机上で勉強しても絶対に無理で、何回も何回も場数を踏まないといけません。１回うまくいっても次は全然うまくいかなかったりすることもあるので、本当にそのような人たちが、ワークショップが３回終わった後に、「ここが出来なかった」とか「このように声かけをしたらよかった」というような研修をたくさんしていただけると、自信を持って場に臨めるようになるのではないかと思います。<br>（委員長）<br>はい。ありがとうございました。何かほかにありますか。<br>（委員）<br>ワークショップの３回目のテーマが「協働から総働のまちづくりって何だろう？」ということで、かなり幅広いテーマになっています。具体的なサブテーマのような形で、２回目のときは「公園をつくりましょう」というテーマがありましたが、３回目もサブテーマが決まっていたら教えていただきたいです。また、協働のまちづくりの基本条例を知ってもらうことが１番大きな目的としているので、それに向けて参加者にどういったアプローチをしていくのか計画があれば教えてください。<br>（事務局）<br>はい。３回目のサブテーマは「対話を重ねることの必要性を考えよう」です。やり方につきましては、先ほどファシリテーターから御説明があったとおりです。市民活動センターの役割の説明ばかりになってしまうと、参加者に伝わりにくい部分があるかと思いますので、プレゼンの中で、御自身の経験の中から、対話の必要性というものをお話ししていただきながら、会に入っていく流れにしたいと考えております。<br>（ファシリテーター）<br>いろんな場所に対話の場はできると思います。例えば、学校のＰＴＡの仲間が集まる場だったり、幼稚園のお母さんたちが集まる場所だったり、そういう対話の拠点をみんなが考えていくことでまちができていき、最後みんなが少しずつ関わること、それこそが住民自治だと思います。そこに行政も入りますが、行政は下支えしてくれる立ち位置だと思います。ですから、地域のことを自分たちで考えられるそしてそれを行政がしっかり支えてくれる、そういうまちをつくっていくためには、自分たちが昨日より今日のほうが一歩を踏み出せるような形で、今まで全然関わりのなかった人たちが一歩踏み出せること、それが住民自治だと思います。誰かが気づけば、まちは変わります。文句を言うことを、意見を言うことに変えるだけでも違うと思います。そのような形で最後終わることができればと思います。今回はあまり無理をせず、今回の参加者が、今後また何かの政策や企画に関わってくれるための最初の前座ではありませ |



| | |
|---|---|
| | んが、今回はそのような場所なのかなと思いながらやらせていただいています。<br>（委員長）<br>事務局からその他についてお願いいたします。<br>（事務局）<br>連絡事項が主になります。11月20日に、小規模多機能自治シンポジウムを開催いたしました。ありがとうございました。委員長にも当日は御登壇いただきました。参加者は約360名でした。参考にアンケート結果をお配りしておりますので、御確認いただければと思います。また、参加された委員につきましては、御感想などありましたらお聞かせいただければと思います。それでは、17ページ目を御覧ください。地域活動情報交換会は残すところあと１回で、最後のテーマは防災となります。それから、中学生以上全住民アンケートについてですが、４地域の報告会の開催日が決まってきましたので、回収率とあわせて記載をしておきました。御見学の御希望等がありましたら、事務局のほうまで御連絡をいただければと思います。なお、令和５年度につきましては、現在、アンケートは福田の西部地区と、岩田の地域づくり協議会から希望を受けております。来年度につきましても、３地域から４地域が実施してくるといいのですが、これにつきましてはやってくださいとお願いするものではございませんので、実施の意向がまとまるまでじっくり待ちたいと考えております。私からの説明は以上とさせていただきます。<br>（委員長）<br>ありがとうございました。ただいま、事務局から連絡事項ということで何点か御紹介いただきました。本日の議事は以上とさせていただきます。次回のワークショップは１月に入ってからということになります。これから準備をしていただくということになりますがよろしくお願いいたします。また当日は、委員の皆様にも、ご参加いただくということになるかと思いますのでよろしくお願いいたします。それでは以上をもちまして、本日の委員会を閉じさせていただきたいと思います。ありがとうございました。引き続きよろしくお願いいたします。<br>（事務局）<br>ありがとうございました。以上をもちまして第８回（仮称）磐田市協働のまちづくり基本条例策定検討委員会を閉会いたします。皆様ありがとうございました。 |